

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第5回審議会

会議名	第4期宇治市生涯学習審議会 第5回審議会
日時	平成22年2月19日（金）午後1時30分から3時
場所	宇治市生涯学習センター 2階 一般研修室
出席者	<p>（委員）</p> <p>森川 知史 委員長、杉本 厚夫 委員長職務代理、奥西 隆三 委員、門脇 洋子 委員、向山 ひろ子 委員、弓指 義弘 委員、坂田 耕作 委員、清水 桂子 委員、竹之下 典祥 委員、原 保彦 委員、古川 彩 委員、俣野 良子 委員、吉田 隆 委員、六嶋 由美子 委員</p>
	<p>（事務局）</p> <p>櫻木 武 教育部次長、山花 啓伸 教育改革推進室長、加藤 きみ江 生涯学習センター所長、池田 聖 生涯学習課主幹、久泉 昭人 生涯学習課生涯スポーツ係長、川瀬 章治 生涯学習課生涯学習係長、森 敦子 生涯学習課主査、杉山 博美 生涯学習課主事</p>
	<p>（傍聴者）</p> <p>なし</p>
<p>前回の会議録について、委員からの意見が特になかったため、公開することとなった。</p> <p>開会のあいさつ （委員長） 日本におけるコミュニケーションは、空気を読むことが求められているが、この審議会では、フランクな議論ができているように思う。 本日もそのようにお願いしたい。</p> <p>（1）報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について参加された委員から報告があった。</li> <li>・宇治市ジュニア文化賞・ジュニア文化奨励賞および宇治市スポーツ賞について （事務局） ジュニア文化賞は、3個人・1団体、ジュニア文化奨励賞は、3個人・3団体が受賞することになった。スポーツ賞は、93個人・16団体が</li> </ul>	

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第5回審議会

受賞することになった。

市制施行記念日である3月1日に表彰式が開催される。

- ・宇治まなびんぐ2010について

(事務局)

2月13、14日に、生涯学習に取り組む人々の成果発表と交流の場として、生涯学習センターにおいて開催した。

61団体の参加及び2,500人の来場者があった。

- ・その他

(事務局)

2月28日に、第27回宇治川マラソン大会が開催される。今回は、3,356名の申込みがあった。委員のみなさまにもお越しいただきたい。

### (2) 協議事項

- ・平成22年度生涯学習関係当初予算について

(事務局)

まず、各種団体等への補助金の交付について説明する。

社会教育法第13条において「地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならない」とされている。また、スポーツ振興法第23条において「地方公共団体が団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、スポーツ振興審議会等の意見を聴かななければならない」とされている。この審議会には、社会教育分科会を設置しており、スポーツ振興審議会を統合した経過があることから、委員のみなさまから意見を伺うものである。

補助金は、宇治市連合育友会、宇治市女性の会連絡協議会、宇治市子ども会連絡協議会、(財)宇治市体育協会、スポーツに関する各種大会事業、国際・国内スポーツ交流事業、宇治市青少年健全育成協議会に交付する予定である。

交付に関しては、「団体に対して交付するもの」と考えている。昨年の審議会において「団体だけではなく、活動自体に対して補助金を交付できないか」との意見をいただいたが、それに関しては、生涯学習センターの事業等で一定の対応ができていると考えている。

次に、平成22年度当初予算の事業概要について説明する。

平成22年度の教育費は、83億7812万4千円、昨年度からの増減率は、54.9%である。また、一般会計歳出予算に占める割合は、13.4%である。(仮)第一小中一貫校整備事業、小学校・中学校・幼稚園維持整備事業、図書館教育充実事業、グラウンド・ゴルフ場開設等が主な事業である。

それでは、委員のみなさまの意見をお聞かせ願いたい。

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第5回審議会

(委員)

教育費に占める生涯学習関係予算の割合は分かるか。

(事務局)

それが分かる資料は作成していない。

(委員)

予算が充てられていないということは、必要性が認められていないということだ。教育費における学校教育と生涯学習のそれぞれが占める割合を示してもらわなくては、我々も判断できない。

(委員)

「公民館」の「その他」について。今年度は300万円、来年度は0円となっている理由は何か。

(事務局)

広野公民館の空調機取替修繕に要した経費である。

(委員)

学校図書館司書が増員されるとのことだが、各校に1名ずつの配置となるのか。

(事務局)

現状の5名から、2名増の7名となる。

(委員)

グラウンド・ゴルフ場の利用料について。1ラウンド利用が400円、終日利用が700円となっている。2ラウンドの場合、利用料は800円となるのか。

(事務局)

2ラウンド以上の利用から終日利用と考えるため、700円である。

(委員)

宇治川太閤堤跡に関する事業については、都市整備部が所管するようだが。

(事務局)

都市整備部歴史まちづくり推進課に、文化財保護に関すること等の事務を移管した。これは、市長部局と教育委員会が連携しながら、まちの景観も文化財と捉え、宇治市のまちづくりを推進するために行ったものである。予算の項目としては、教育費である。そのことから、説明させていただいた。

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第5回審議会

(委員)

昨年も指摘したが、スポーツ教室について。市教委は無料で開催しているが、同じ内容のものを有料で開催しているところがある。調整はできないのか。

(事務局)

来年度は無料のまま開催する。有料化については、検討を進めている。

(委員)

「生涯学習課（生涯スポーツ係）」の「その他」について。今年度は2億804万2千円、来年度は2014万5千円となっている。この差は何か。

(事務局)

今年度に建設したグラウンド・ゴルフ場にかかる経費である。

(委員)

昨年度からの変更点をまとめたものを用意してほしい。

(事務局)

来年度はそのように準備する。

(委員)

予算編成が決まったうえで、意見を聞かれている。臨時の審議会を開いてでも委員の意見を聞き、それを予算に反映させるべき。また、「補助金は団体に対して交付する」というが、それでは既存の団体に限定され、新しい団体が育たない。閉塞状態だ。

(事務局)

予算の要求項目をまとめ、財務課と協議に入るのは12月頃になる。よって、12月頃の審議会で見解をお聞きするということがよろしいか。

(委員)

9月の時点でもよいので、早い段階で来年度の方針を伝えてほしい。我々からの意見聴取と、それをふまえた予算編成、その経過説明の責任を果たしてほしい。

(事務局)

いただいた意見について、来年度に整理を図る。

- ・「平成22年度社会教育の重点」（案）について事務局から、平成21年度からの変更点を説明した。

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第5回審議会

(委員)

「1 生涯学習社会の実現」の「(1) 生涯学習推進体制の整備・充実」にある「宇治市生涯学習審議会の充実・活用」について、具体案はあるのか。「(4) 市民の学習活動の促進・支援」にある「社会教育、生涯学習における人材の養成」について、その方法は何か。『人材活用システム「宇治市生涯学習人材バンク」の利用促進と機能充実』について、現在の登録状況と登録講師の詳細について聞きたい。

「4 スポーツ・文化の振興」の「(1) 生涯スポーツの推進」内の『「総合型地域スポーツクラブ」の設立と充実』が、『「総合型地域スポーツクラブ」の充実』と変更されている。クラブの拡大を謳っている「宇治市スポーツ振興計画」と齟齬が生じているのではないか。「東宇治スポーツクラブ」に対する早急な支援が必要だと感じている。

最後に、「宇治市スポーツ振興計画」について。この計画の推進状況を具体的に教えてほしい。実際に取組んでいるという印象がない。計画を浸透させるため、関係者・団体等に説明したのか。

(事務局)

「宇治市生涯学習審議会の充実・活用」は、現在のところ具体的には取組んでいない。過去に「宇治市子どもの読書活動推進計画」や「宇治市スポーツ振興計画」などの策定時に意見をいただいた。「宇治市子どもの読書活動推進計画」については、見直しの時期が来る。事務局で整理でき次第、意見をいただきたいと考えている。

「社会教育、生涯学習における人材の養成」については、各種の講座を開催し、計画的に進めている。

『人材活用システム「宇治市生涯学習人材バンク」の利用促進と機能充実』について。現在、125件の登録がある。登録講師に直接依頼していただくシステムのため、利用状況の詳細は把握できていない。登録講師に実施したアンケートによれば、20%程度の利用があったようである。今後も、利用促進を図っていきたい。

「東宇治スポーツクラブ」に対しては、毎月の定例会議に出席し、協議に参加している。現在は、会場確保、利用料金の減額等について支援している。

「宇治市スポーツ振興計画」について。関係者・団体等への説明会は開催していない。役員に配布し、周知を図っている。

(委員)

取組が遅く、消極的な印象がある。職員間の意識の浸透は図れているのか。この計画が策定されて1年が経とうとしているが、今後の宇治市のスポーツをどうしていくつもりなのか。

市教委単体ではなく、各種の関係者・団体等に積極的に働きかけて協力体制を組まなければ進まない。他市では、大学との連携により推進していると聞いている。

予算についても、何らの措置もされていない。これでは、前向きに推

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第5回審議会

進する意志があるのかと疑ってしまう。

(事務局)

何から推進していくかを議論しているところである。京都サンガF.C. と共催し、健康教室を開催するなど、少しずつ展開している。当面は、「東宇治スポーツクラブ」を充実させたい。

(委員)

進捗状況の評価は重要である。評価システムはどのようになっているのか。市民に対し、評価を公表することが必要だ。計画に評価システムを盛り込んでほしいと意見したが、すでに行政にあるシステムで評価を行うということで、入らなかった。

ところで、「総合型地域スポーツクラブ」の担当者は誰か。

(事務局)

生涯学習課生涯スポーツ係である。

(委員)

生涯学習課生涯スポーツ係の誰なのか。「みんなでやっている」とは、「みんなでやっていない」と同じこと。責任を持って取組む担当者を付けなければならない。

やはり、「総合型地域スポーツクラブ」について、「設立」を削除するのはおかしい。計画と食い違う。

(事務局)

「東宇治スポーツクラブ」については、生涯スポーツ係長が担当している。また、「設立」の文言は入れて整理したい。

(委員)

先日、京都文教大学、京都文教短期大学と宇治市が、包括的な連携を行うことで協定を結んだ。子育てについては、こども福祉課と連携していく予定である。「3 家庭・地域社会の教育力の向上」に、家庭教育についての方策が書かれているが、こども福祉課とはどのような連携を取っているのか。

(事務局)

現在のところ、連携できていると言えるほどのものはない。

(事務局)

生涯学習センターでは、参加者、地域と連携しながら子育てに関する事業を開催している。女性だけでなく、若い父親や高齢者など、幅広い層の男性が参加している。公民館でも、親子農業体験などに取組んでいる。事業を通して、交流が図られている。

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第5回審議会

(委員)

子育て事業は、就学前で終わってしまうというイメージがある。就学後も継続されなければならない。子育てを総括的に考えることが必要だ。それが生涯学習だと思う。

(事務局)

いただいた意見を施策に反映させていきたい。

- ・宇治市スポーツ賞について

(事務局)

スポーツ賞の受賞件数が増え続けている。なかでもジュニア賞の増加は大きい。近年、スポーツが多種多様化しており、小規模の大会であっても基準を満たしていれば受賞となる。これでは賞の価値が問われてくるということで、先日の選考委員会において、奨励賞を創設する案が出た。事務局として2つの案を考えているので、これに関して意見をいただきたい。

- ・今期の審議事項について

(委員長)

コミュニケーションに関するアンケートを実施し、報告書をまとめた。次回の審議会で、私からアンケート案を提示する。

コミュニケーションについて、紹介したい考え方がある。ヨーロッパでは、宗教によって個人の意識と社会が形成された。だが、日本では宗教の違いもあってか、独立した個人をもって作られる社会ではなく、世間が形成されるに止まっている。

しかし、現在の若者は、世間というものに対してもピンときていない。世間が流動化した状態である空気には、敏感に反応する。空気が読めないということに脅えているのである。この視点をもって現代のコミュニケーションを考えていくことが必要だと思う。

(委員)

しかし、空気を読む、つまり状況判断ができない若者が多いことも事実である。あいさつ運動にしても、相手が年上なのか年下なのか、あいさつをすべき場なのか等、状況判断ができていない。あいさつ運動に違和感があると言ったのは、パターン化を生んでいると思うからだ。心をこめてあいさつができていないか。

「思い」と「想い」は違う。「想い」は「思い」よりも強い。何によって「思い」が「想い」に変わるのかを知りたい。

(委員)

私は、難しく考えてあいさつ運動をしていない。あいさつ運動をしていくなかで、子どもたちの成長が見える。最初はいいさつだけでも、いつか次の言葉が出てくるかもしれない。

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第5回審議会

(委員)

考えてやっていないことでも、分析すれば見えてくるものがあるだろう。

(委員)

あいさつの次の言葉を言う気持ちを、どう育てたらよいだろうか。

(委員)

さきほどの分析については、自分の役割だと思う。この審議会には、あいさつ運動に取り組む委員がいれば、分析する委員もいる。それぞれの役割がある。

(委員)

言語、非言語のコミュニケーションをマッチすることも考えなければならない。

(委員長)

コミュニケーションを論じるうえで、空気を一つの題材としたい。

(3) その他

・平成22年度社会教育事業（府・近畿・全国規模）予定について

(事務局)

別紙資料のとおり予定されているので、参加していただきたい。

<次回の会議について>

平成22年4月20日（火）午後1時30分から